

124. (新たに) 1章〔スーラ〕が下る度にかれらのある者は言う。
「これによってあなたがたの中、誰が信心を深めるであろうか。」本当に信仰する者は、これによって信心を深め、喜ぶ。
- 125.しかし心に病の宿る者は、これによって汚れの上に汚れを加えて、不信者として死ぬ。
- 126.かれらは毎牢、1度や2度試・られるのに気付かないのか。それでもかれらは悔悟せず、また改心しないのである。
- 127.かれらは1章〔スーラ〕が下る度に、栗いに顧・て(目で言う)。「誰かが、あなたがたを見ているのか。」、やがてかれらは背き去る。かれらは悟らない民であるために、アッラーはその心を(真理から)背かせられたのである。
- 128.今、使徒があなたがたにあなたがたの間から、やって来た。かれは、あなたがたの悩・ごとに心を痛め、あなたがたのため、とても心配している。信者に対し優しく、また情深い。
- 129.だからかれらが背き去っても言ってやるがいい。「わたしには、アッラーがいれば十分である。かれの外に神はない。わたしはかれを信頼する。かれこそは、(栄光に満ちた)至高の玉座の主であられる。」

SURA 10.ユースス章

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

- 1.アリフ・ラーム・ラー。これらは英知に満ちた、啓典の御印である。
- 2.われがかれら(マッカ人)の中の1人(預言者ムハンマド)に啓示して、「あなたは人びとに(不信心の結末を)警告しなさい。また信仰する者には、主の御許で優れた足場を与えられるとの、吉報を伝えなさい。」と命じたことが(マッカの)人びとに(それ程)驚きであるのか。(だが)不信心者たちは、「これは明らかに魔術師です。」と言う。
- 3.本当にあなたがたの主はアッラーである。6日の間に天と地を創造され、それから(大権の)玉位に鎮座して、凡ての事物を規制統御なされる。かれの許しを得た後でなければ、執り成す者はない。これがあなたがたの主、アッラーである。かれに仕えなさい。あなたがたは、訓戒を受け入れないのか。
- 4.あなたがたは皆一緒にアッラーの御許に帰る。アッラーの約束は真実である。本当にかれは創造を始め、そしてそれを繰り返される。これは信仰して善行をした者に、公正に報われるためである。だがかれを信仰しない者には、煮えたった飲物と、痛ましい懲罰がある。これはかれらが不信心であったためである。
- 5.かれこそは太陽を輝やかせ、月を灯明とされ、その軌道を定め、年数(と時日)の計算をあなたがたに教えられた方である。アッラーがこれらを創造されたのは、只真理(を現わすため)に外ならない。かれは知識ある人びとに印を詳しく述べられる。

- 6.本当に夜と昼との交替，またアッラーが天と地の間に創られる凡てのものの中には，主を畏れる者への印がある。
- 7.本当にわれとの会見を期待しない者，また現世の生活に満足してこれに安心している者，そしてわれの印を疎かにする者，
- 8.これらの者の住まいは，その（悪い）行いのために地獄である。
- 9.本当に信仰して善行に励む者には，かれらの主は，その信仰によってかれらを導かれる。至福の樂園の中に，川はかれらの足元を流れるのである。
- 10.その中でかれらの祈りは，「アッラーよ，あなたの栄光を讃えます。」であり，またそこでのかれらの挨拶は「平安あれ。」であり，そして祈りの結びは，「万有の主アッラーを讃えます。」である。
- 11.かれらが幸福へと急ぐよう，もしアッラーが人びとに対して悪を急がれるならば，（猶予の）期間はきっと終らされたであろう。われとの会見を望まない者には，法外の混乱の中で当てもなくさ迷わせることであろう。
- 12.人びと（不信心者たち）が苦難に会った時は，横たわり，あるいは座り，あるいは立っていても（どんな状態のもとでも）われを呼ぶ。だがわれがかれらから苦難を除くと，（まるで）かれらを苦しめた（以前の）不幸のためわれを呼ばなかったかのように過ごしてしまう。このように愚かな者は，その行いを（悪魔によって）立派だと思わせられる。
- 13.本当にわれはあなたがた以前にも，かれらが不義を行ったために，幾多の民族を滅ぼした。使徒たちが明証をかれらに与えたのだが，かれらは信じようとはしなかった。このようにわれは，罪を犯した民に報いる。
- 14.それからわれはかれらの後に，この地をあなたがたに継がせた。これはあなたがたが，如何に行うかを見るためである。
- 15.ところがわれの明瞭な印が，かれらに読・聞かされた時，われと会うことを望まない者たちは言った。「これとは別のクルアーンを持って来なさい。それともこれを改（鼠？）しなさい。」言ってやるがいい。「わたしは自分の裁量でこれを改（鼠？）することは出来ない。只，わたしに啓示されたものに従うだけである。わたしがもし主に背いたならば，偉大な日の懲罰を本当に恐れる。」
- 16.言ってやるがいい。「アッラーの御心なら，わたしはあなたがたにそれを読誦せず，またかれは，あなたがたに教えられなかったであろう。その（啓示）前に，わたしは確かにあなたがたの間で，一生ほどの（40年の）歳月を過ごした。あなたがたは未だ悟らないのか。」
- 17.アッラーに就いて偽りを捏造し，その啓示を拒否するほど，甚だしい不義の者があろうか。罪を犯す者は，決して成功しないのである。

18.かれらはアッラーの外に、かれらを害せず、また益のないものに仕えて、「これら（の神々）は、アッラーの御前でわたしたちを執り成すものです。」と言う。言ってやるがいい。「あなたがたは、天地においてアッラーの知らないことを、かれに告げようとするのか。」かれを讃えなさい。かれはかれらが配するものの上に高くおられる。

19.人間は（元来）唯一族（1つのウンマ）であった。だが（後に）かれらは敵対した。もし以前にあなたの主から下された御言葉がなかったならば、その相違点に就いては、かれらの間で必ず解決されていたであろう。

20.かれらは言うであろう。「何故主から一つの印もかれ（ムハンマド）に下されないのだろう。」と言ってやるがいい。「幽玄界のことは、只アッラーが御支配しておられる。だから待て。わたしもまた、あなたがたと共に待つ者である。」

21.われが人間に災厄を味わせた後、慈悲を与えると、見よ、かれらはわが印に対して策謀をする。言ってやるがいい。「アッラーは、策謀に対して迅速に処置される。」本当にわが使徒たち（天使）は、あなたがたの策謀することを凡て記録するのである。

22.かれこそはあなたがたを陸に、また海に旅をさせられる御方である。それであなたがたが船に乗る時、それが順風に乗って航行すれば、かれらはそれで喜ぶ。暴風が襲うと、大波が四方から押し寄せ、かれらはもうこれまでだと観念して、アッラーに向かって、信心を尽くして祈る。「あなたが、もしわたしたちをこれから救い下されば、必ず感謝を捧げる者になります。」

23.だがかれが救助して・ると、見よ、かれらは地上において正義を侮って不義を行う。人びとよ、あなたがたの反逆は只自分自身の魂を害し、現世の生活で享樂を得るだけであるが、あなたがたはすぐにわれに帰るのである。その時われは、あなたがたの行ったことを告げ知らせるであろう。

24.本当に、現世の生活を例えれば、天からわれが降らせる水（雨）のようなものである。それで上を潤し、人間や家畜の食べ物を茂らせる。大地が美しい装いで覆われて飾られると、その（住）民は、その全権を持ったと思込む。だがわが命令が、夜も昼も一度下れば、昨日は繁茂していたはずのものが刈き取られた株のように変り果てる。われはこのように、熟慮する人びとのために（われの）印を解明する。

25.本当にアッラーは、人を平安の家に招き、また御好・になられた者を正しい道に導かれる。

26.善行をした者には（天国へ入るといふ）素晴らしい報奨があり、また追加もある。かれらの顔には、暗さや屈辱の影もないであろう。これらは樂園の住人である。永遠にその中に住むであろう。

27.だが悪を行っていた者には、同様の悪の報いがある。また屈辱に覆われ、アッラー（の怒り）からかれらを守るものはないであろう。その顔は丁度夜の暗闇に覆われたようである。これらは火獄の住人である。永遠にその中に住むであろう。

28.その日、われは一斉にかれらを招集する。その時われは、多神を崇めた者たちに言うであろう。「あなたがたそしてあなたがたの仲間、そこに控えていなさい。」それからわれは一人一人を引き離す。その際、かれらの立てていた神々は言う。「あなたがたが拝したのは、わたしたちではなかった。」

29.アッラーは、わたしたちとあなたがたとの間の、立証者として万全である。わたしたちは、あなたがたが拝しているのを実際知らなかった。」

30.そこで各人は先に送った行いを確認して、かれらの真の主、アッラーの許に連れ戻され、かれらが捏造していたものはかれらから消え去るであろう。

31.(人びとに) 言ってやるがいい。「天と地から、あなたがたに用度を供給するのは誰か。聴覚や視覚を司るのは誰か。また死んだ物から、生命を(お?)し、生から死を(西?)せられるのは誰か。また凡ての事物を規制統御するのは誰であるのか。」かれらは必ず「アッラー」と言おう。言ってやるがいい。「何故あなたがたは、主を畏れないのか。」

32.これが、あなたがたの真の主、アッラーであられる。真理から離れては、虚偽の外に何があろう。あなたがたは、どうして背き去るのか。」

33.このように主の掟に背く者に対し、あなたの主の御言葉は真実であることが立証された。本当にかれらは信仰しないであろう。

34.言ってやるがいい。「あなたがたの神々の中、誰が万有の創造をし、それを繰り返すのか。」言ってやるがいい。「万有を創造され、それからそれを繰り返される御方は、アッラーである。それなのにあなたがたは、どうして(真理から)迷い去るのか。」

35.言ってやるがいい。「あなたがたの神々の中、誰が真理に導くのか。」言ってやるがいい。「アッラーは真理に導いて下される。それで真理に導く方と、自分が導かれなければ道を見い出せない者と、どちらが従うのに値するのか。あなたがたはどうしたのか。あなたがたはどう判断するのか。」

36.かれらの多くは臆測に従うだけである。本当に臆測は、少しも真理にとって替えることは出来ない。本当にアッラーは、かれらの行うことを熟知なされる。

37.このクルアーンは、アッラー以外のものによって作られるようなものではない。それどころかこれは、それ以前にあったものの確証(の啓示)であり、万有の主からの、疑いの余地を残さない、啓典の解明である。

38.またかれらは言うのである。「かれ(ムハンマド)がそれを作ったのですか。」言ってやるがいい。「それなら、それに似た1章[スーラ]を持ってきなさい。またあなたがたの言葉が真実ならば、アッラー以外にあなたがたを助けることの出来る援助者に願って・なさい。」

39.いや、かれらはその知識で理解出来ないもの、またその解説がかれらに未だ下されないものを、偽りであるとする。このようにかれら以前の者も偽りであるとした。だが見よ、不義の徒の最後がどんなものであったかを。

- 40.かれらの中、ある者はそれ（クルアーン）を信じ、またある者はそれを信じない。あなたの主は、犯罪者を最もよく知っておられる。
- 41.かれらがもしあなたを虚偽の徒とするならば言うてやるがいい。「わたしの所業はわたしのためであり、あなたがたの所業はあなたがたのためである。あなたがたはわたしの行うことに関係なく、わたしはあなたがたの行うことに関係ない。」
- 42.かれらの中には、あなたに耳を傾ける者がある。だがあなたは、聞けない者に聞かせることができようか、かれらは、やはり理解しないのである。
- 43.またかれらの中には、あなたに目を注ぐ者がある。だがあなたは見えない者を導くことが出来ようか、かれらは、やはり見てはいないのである。
- 44.本当にアッラーは決して人間を害されない。だが人間は自らを害する。
- 45.かれが、かれらを召集なされる日、かれらは昼間の一刻も滞留しなかったかのように（感じて）、栗いによく覚えているであろう。アッラーとの会見を否認して、導かれなかった者たちは確かに失敗者である。
- 46.われがかれらと約束した（悪い結果の）一部を、（生存中に現わして）あなたに示しても、または（それを示す前に）あなたをわれに召しても、やはりかれらはわれに帰るのである。その時アッラーは、かれらの行った凡てに就いて立証される方であられる。
- 47.それぞれの民に対して、使徒が（遣わされたので）ある。かれらの使徒がやって来た時、事はかれらの間で公正に裁決されて、不当に扱われることはない。
- 48.かれらは言う。「あなたがたの言葉が真実なら、この約束が果たされるのは何時なのですか。」
- 49.言うてやるがいい。「わたしは、アッラーが御好・にならない限り、自分で害しまたは益する力はない。各々の民には定められた期限がある。かれらの期限が到来すれば、一刻も猶予することは出来ない。また（それに）先んずるこも出来ない。」
- 50.言うてやるがいい。「あなたがたは考えないのか、かれの懲罰は夜でも昼でも、あなたがたに下るのである。罪深い者たちが急ぐのは、そのどの（懲罰）であるのか。」
- 51.「あなたがたはそれがやって来た時、やっと信じるのか。（その時言われよう）今があなたがたが、急いでいたその時である。」
- 52.その時不義の徒に向かって言われるであろう。「永遠の懲罰を味わえ。あなたがたが行ったことに対してだけ、報いられるのではないか。」
- 53.かれらはあなたに問うだろう。「それは真実なのですか。」言うてやるがいい。「そうだ、わたしの主に掛けて、本当にそれは真実です。あなたがたは免がられないのです。」

- 54.不義を行った各人は、地上の一切のものを所有しているとすれば、必ずそれを挙げて罪を贖おうとするであろう。また懲罰を目の前に見る時、かれらは後悔を表す。だがかれらの間は公正に裁定され、不当に扱われることはないのである。
- 55.天地の凡てのものは、アッラーの有ではないか。本当に、アッラーの約束は真実ではないか。しかし、かれらの多くは分らない。
- 56.かれは生を与え、また死を与える。そしてかれにあなたがたは帰されるのである。
- 57.人びとよ、あなたがたの主から確かに勧告が下された、これは胸の中にある（病い）を（癒?)し、また信者に対する導きであり慈悲である。
- 58.言ってやるがいい。「アッラーの恩恵により、またその慈悲により、かれらを喜ばせなさい。それはかれらが蓄積したものに勝る。」
- 59.言ってやるがいい。「アッラーが、御恵・としてあなたがたに下されたものを考えて・なさい。何故あなたがたはその（一部を）非合法とし、また（一部を）合法としたのか。」言ってやるがいい。「アッラーがあなたがたに許されたのか、それともあなたがたがアッラーに就いて捏造したのか。」
- 60.復活の日に、アッラーに就いて嘘を捏造した者たちの思うことは何であろうか。本当にアッラーは、人間に対し恩恵の限りを尽くされる。それでも、かれらの多くは感謝しない。
- 61.あなたが何事に従事していても、またクルアーンのどの部分を読誦していても、またあなたがたがどんな行いをしていようとも、あなたがたがそれにうち込んでいる限り、われは必ずあなたがたのための立証者である。天地の微塵の重さも、あなたの主から免れられない。またそれよりも小さいものでも、大きいものでも（凡て）はつきりと書物の中に（記されて）ないものはないのである。
- 62.見なさい。アッラーの友には本当に恐れもなく、憂いもないであろう。
- 63.かれらは信仰し、（アッラーを）畏れていた者たち。
- 64.かれらに対しては現世でも、来世においても吉報がある。アッラーの御言葉には変更はない。それこそは偉大な、幸福の成就である。
- 65.かれらの言葉に、あなたの心を痛ませてはならない。本当に権能栄誉は、凡てアッラーの有である。かれは全聴にして全知であられる。
- 66.見なさい。天地の凡てのものは、本当にアッラーの有である。アッラーを差し置いて、神々に祈っている者たちは何に従うのか。かれらは妄想に従っているだけ。自分勝手に過ぎない。
- 67.かれこそは、あなたがたのため夜を定め、それであなたがたを憩わせ、また昼間を明々白々にされる方である。本当にその中には聞く耳をもつ人びとに対し、印がある。

68.かれらは、「アッラーは一人の子をもうけられた。」と言う。かれに讃えあれ。かれは自足なされる御方。天地の凡てのものは、かれの有である。あなたがたはこれに対して、権威はないのである。アッラーに就いて、自分の知らないことを語るのか。

69.言ってやるがいい。「アッラーに就いて嘘を捏造する者は、決して栄えないであろう。」

70.かれらはこの世で束の間の享楽をなし、それからわれの許に帰るのである。その時われは、不信心であったことに対して厳しい懲罰を味わせるであろう。

71.かれらにヌーフの物語を読誦しなさい。かれがその民にこう言った時を思え。「わたしの人がびとよ、わたしが（あなたがたと一緒に）留り、またアッラーの印を思い出させることがあなたがたにとって迷惑であっても、わたしはアッラーを信頼する。それであなたがたは、自分で立てた神々と（懽くして）あなたがたの事を決定しなさい。それであなたがたの決断に、半信半疑であってはならない。その時わたしに対する態度を決め、猶予するな。

72.仮令あなたがたが背き去っても、わたしはあなたがたから報酬をもらうわけではなかった。わたしは只アッラーから報酬をいただくだけ。わたしは、ムスリムであるよう命じられている。」

73.だがかれらはかれ（ヌーフ）を拒否したので、われはかれとかれの味方の者たちを方舟に救い、かれらに（地を）継がせ、わが印を拒否した者を溺れさせた。見なさい。警告された者たちの最後がどんなものであったかを。

74.それからかれの後、われは使徒たちをその民に遣わし、明白な（印）を授けた。だがかれら（人びと）は以前に拒否したものを、信じようとはしなかった。このようにわれは反逆者の心を封じる。

75.それからかれらの後、わが印を持ってムーサーとハールーンを、フィルアウンとその首長たちに遣わしたが、かれらは高慢で罪深い民であった。

76.真理がわが許からかれらに(西?)された時、かれらは言った。「これは明らかに魔術である。」

77.ムーサーは言った。「あなたがたは（この現実）に(偽?)されている真理を（指して）言うのか、これが魔術であろうか。魔術師は成功しないであろう。」

78.かれらは言った。「あなたが来たのは、わたしたちの祖先が守っていた信仰から背かせるためである。あなたがた両人は、この国で高い地位を得ようとするのか。わたしたちはあなたがた両人を信じない。」

79.フィルアウンは言った。「凡ての老練な魔術師を、ここに呼んで来なさい。」

80.魔術師が来た時、ムーサーはかれらに言った。「あなたがたの投げたいものを投げなさい。」

- 81.かれらが投げた時、ムーサーは言った。「あなたがたが現出したのは、魔術である。アッラーは直ぐそれを無力にされる。本当にアッラーは不義の徒の仕業を成功させない。」
- 82.罪深い者たちが仮令好まなくても、アッラーは御言葉で真理を立証される。
- 83.かれの民の中末輩を除いては、ムーサーを信じようとしなかった。かれらはフィルアウンや首長の迫害を恐れていたのである。フィルアウンは国内で権勢を恋にし、本当に暴君であった。
- 84.ムーサーは言った。「わたしの人びとよ、あなたがたはアッラーを信仰するのなら、かれを信頼しなさい。もしあなたがたが服従、帰依する者であるならば。」
- 85.かれらは（祈って）言った。「わたしたちはアッラーを信頼します。主よ、わたしたちを、不義の民のための一試練となされず、
- 86.あなたの御慈悲をもってわたしたちを不信心の民から救い出して下さい。」
- 87.われはムーサーとその兄弟に啓示して言った。「あなたがたの民のためエジプトに住まいを定め、あなたがたの家を礼拝の場となし、礼拝の務めを守れ。また信者たちに吉報を伝えなさい。」
- 88.ムーサーは申し上げた。「主よ、本当にあなたはフィルアウンとその首長たちに、現世の生活の栄華裕福を御授けになりました。主よ、かれらがあなたの道から迷い出てしまいますように。主よ、かれらの富を滅ぼされ、かれらの心を頑固にして下さい。それ故痛ましい懲罰が下るまで、かれらは信じないでしょう。」
- 89.かれは仰せられた。「あなたがた両人の祈りは受け入れられた。だから姿勢を正し、無知な者の道に従ってはならない。
- 90.われは、イスラエルの子孫に海を波らせ、フィルアウンとその軍勢は、暴虐と敵意に満ちてかれらを追跡した。溺れ死にそうになった時、かれ（フィルアウン）は言った。「わたしは信仰いたします。イスラエルの子孫が信仰するかれの外に、神はありません。わたしは服従、帰依する者です。」
- 91.（するとかれに仰せられよう。）「何と、今（信仰するのか）。ちょっと前まであなたは反抗していた。結局あなたは犯罪者の仲間であった。
- 92.だが今日は、われは後の者への印とするため、あなたの体を救うであろう。だが人びとの多くはわが印を疎かにする。」
- 93.われは、イスラエルの子孫に安全な居住地を定め、凡ての良いものを授けた。かれらに（悪い）知識が来るまでは意見の相異はなかった。本当にあなたの主は、審判の日にかれらが争っていたことに就いて、かれらの間を裁決されるであろう。
- 94.あなたがもしわれの命令したものに就いて疑うならば、あなた以前の啓典を読んでいる者に問え。確かに真理は、主からあなたに（育？）されたのである。だからあなたは懐疑に陥ってはならない。

95. またあなたは、失敗者にならないよう、アッラーの印を虚偽であるとする者の仲間であってはならない。
96. 本当に（罪が深いために）主の御言葉通りになった者は、信仰しないであろう。
97. 例え凡て印がかれらに(宙?)されても、かれらが（自分で）痛ましい懲罰を見るまでは。
98. 信仰したのにその信仰心が（破滅を免れるのに）役立った町が、ユーヌスの民の外にはなかったのは何故なのか。かれら（ユーヌスの民）が信仰に入った時、われは現世の生活における、不名誉な懲罰をかれらから取り払い、現世（の生活）を享楽させた。
99. もし主の御心なら、地上の凡ての者は凡て信仰に入ったことであろう。あなたは人びとを、強いて信者にしようとするのか。
100. アッラーの許しがなければ、誰も信仰に入ることは出来ないのである。また悟らない者には、かれは退廃を起こさせる。
101. 言ってやるがいい。「天地の凡てのものを観察しなさい。」だが信仰しない人びとには、印も警告も役立たない。
102. かれら以前に過ぎ去った人びとの日（に起こったの）と同じこと以外に、かれらは（何を）期待するのか。言ってやるがいい。「それなら待て、わたしもまたあなたがたと共に待つものである。」
103. その中われは、使徒たちと信仰する者たちを救うであろう。このように信者を救うのは、われの免れられない務めである。
104. 言ってやるがいい。「人びとよ、例えあなたがたがわたしの教えに就いて疑っても、わたしはアッラーを差し置いて、あなたがたが仕えているものに仕えない。わたしはアッラーに仕える。あなたがたを召される御方ではないか。わたしは信者であるよう命じられている。
105. （それからこうも言われた。）それであなたの顔を、純正な教えに向けなさい。偶像信者の仲間であってはならない。
106. またアッラーを差し置いて、あなたを益せずまた損いもしないものに祈ってはならない。もしこれをするならば、あなたは本当に不義者の仲間である。
107. もしアッラーがあなたに災厄を下されれば、かれの外にそれを除くものはない。またもしかれがあなたに幸福を望まれば、かれの恩恵を拒否するものは何もないのである。かれはそのしもべの中、御好・になられる者に、それを下される。本当にかれは寛容にして慈悲深くあられる。」
108. 言ってやるがいい。「人びとよ、主から、あなたがたに真理が(宙?)されたのである。導かれる者は、只自分を益するために導かれ、迷う者は、只自分を害するために迷う。わたしは、あなたがたの後見人ではない。」

109.あなたに啓示されたものに従い、アッラーが裁かれるまで耐え忍べ。かれは裁決に最も優れた御方でられる。

SURA 11.フード章

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

- 1.アリフ・ラーム・ラー（この）啓典は、（英知によって）守護されており、また英明にして通曉される御方からの解明である。
- 2.（それで言うがいい。）「アッラーの外誰にも仕えてはならない。本当にわたしは警告者、また吉報の伝達者として、かれからあなたがたに（遣わされた）。」
- 3.あなたがたの主の御赦しを請い願え。そしてあなたがたは、悔悟してかれの許に返れ、（そうすればアッラーは）定められた時期までいろいろなよいものを享受させる。また功績の多い者には、それぞれ豊富に恵・を与えられる。だがもし、背き去るならば、わたしはあなたがたのために偉大な日の懲罰を恐れる。
- 4.「あなたがたはアッラーの許に帰るのである。かれは凡てのことに全能であられる。」
- 5.見なさい。かれらは（その敵意を）かれに隠そうとして、自分たちの胸をたた・込んでいる。ああ、自分たちの衣を（幾重に）着こんでも、かれはかれらの隠すこと顕わすことを知っておられる。本当にかれは、胸の中の秘密をよく知っておられる。
- 6.地上の凡ての生きもので、その御恵・をアッラーからいただいていない者はない。かれはそれらの居住地と寄留所を知っておられる。凡てはつきりと書物に（記されて）ある。
- 7.かれこそは玉座が水の上にあった時、6日の間に天と地を創造された御方。それはかれが、あなたがたの中誰が、行いに最も優れているか、明瞭にされるためである。だがあなたがもし、「あなたがたは、死後必ず甦されるであろう。」と言えば、不信心者たちはきっと、「それは明らかに魔術に過ぎない。」と言うであろう。
- 8.もしわれが定められた時期まで、かれらに対する懲罰を延ばせば、かれらはきっと言うであろう。「何が（懲罰を）遅らせているのか。」ああ、それが到来する日、何ものも、それを避けられず、かれらは自分たちが嘲笑していたもので、取り囲まれるであろう。
- 9.もしわれが、人間に規しく慈悲を施して味わしめ、その後それをかれらから取り上げれば、きっと絶望して不信心になる。
- 10.だが災いに見舞われた後われがもし恩恵を味わしめると、かれは、「不幸はわたしから去ってしまった。」と言って必ず狂喜して自慢する。
- 11.耐え忍んで、善行をなす者だけはそうではない。これらの者には、（罪の）赦しと偉大な報奨がある。